

試合規定の改定について

練馬区学童野球連盟 試合規定 を以下のとおり改定する。

項番	改定前	改定後	備考
前文			
-	原則として、本年度の『財団法人全日本軟式野球連盟制定野球規則』を準用する。但し、上部団体の大会や交流試合は、それぞれの『規定』に基づくものとする。	原則として、本年度の『野球規則』および『競技者必携』に定める規則（『競技に関する連盟特別規則』など）を準用する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・準用する上位の規則名を修正。</li> <li>・「但し、…」を削除。</li> </ul>
1. 試合方法			
(1)	<p><u>但し、決勝戦に限り</u></p> <p>イ. それぞれの規定イニング数を優先し、時間制限はしない。</p> <p>ロ. 同点の場合は</p> <p>Aリーグは通常の延長戦を2イニング続行し、それでも決しない場合は特別延長戦を最大3回まで繰り返す。</p> <p>Bリーグは通常の延長戦を1イニング続行し、それでも決しない場合は特別延長戦を最大2回まで繰り返す。</p>	<p><u>但し、決勝戦に限り</u>それぞれの規定イニング数を優先し、時間制限はしない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<u>決勝戦においても通常の延長戦は行わないこととする。</u></li> <li>・特別延長戦については次項(2)でまとめて規定する。</li> </ul>

項番	改定前	改定後	備考
(2)	再び同点の場合、Aリーグは最大3回まで、Bリーグは最大2回まで繰り返す。	再び同点の場合は最大2回まで繰り返す。	・特別延長戦はAリーグ、Bリーグともに最大2回までとする。
(3)	正式試合：『野球規則』4.11(d)【例外】 (2)【注】及び軟式野球連盟特別規約 一、の3を適用 “最終均等回の総得点で決する” ◆日没及び降雨コールドゲーム成立時に適用とする。	正式試合：『野球規則』7.01(g)(4)【注】及び『競技に関する連盟特別規則（少年部・学童部）』1(2)を適用。“最終均等回の総得点でその試合の勝敗を決する”。 ◆日没及び降雨コールドゲーム成立時に適用とする。 ◆勝敗が決していない場合には後日特別継続試合を実施する。継続試合においてはスターティングメンバー表への登録選手の追加を認める。	・上位の規則の項番を修正。 ・日没及び降雨により勝敗が決していない場合に特別継続試合とすることを明記。 ・特別継続試合となる可能性があるときには、可能な限り試合前に両チームに通告する。
<b>2. 試合規定</b>			
(2)	11名以上、20名以内とする。	10名以上、20名以下とする。	・最少人数を10名とする。 ・「以内」→「以下」
(4)	メンバー表は、ボールペンを使用し直筆1枚を本部用、複写2枚（球審及び対戦チーム用）計3枚を本部に提出すること。	メンバー表は、ボールペンを使用し直筆1枚（本部用）、複写3枚（球審、対戦チーム及び自チーム用）計4枚を本部に提出すること。	・修正がある場合を考え、本部へのメンバー表の提出は4枚（自チーム分を含む）とする。

項番	改定前	改定後	備考
(8)	<p>シートノックは、7分間とし後攻から行う。 (中略)</p> <p>ニ. ダイヤモンド、外野フェアエリアには入らない。</p>	<p>シートノックは、各試合会場の第1試合のみ各チーム7分間とし後攻から行う。 (中略)</p> <p>ニ. ノッカー及び助手はダイヤモンド、外野フェアエリアには入らない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・シートノックは第1試合のみ行うことを明記。</li> <li>・ダイヤモンド、外野フェアエリアに入れないのはノッカー及び助手であることを明記。</li> </ul>
(11)	<p>同一投手に対するタイムについては、1イニング1回までとし、2回目は自動的に投手交代とする。</p>	<p>監督が投手の所に行く回数の制限</p> <p>監督が1イニングに同一投手のもとへ2度目に行けば、その投手は自動的に交代しなければならない。また、監督が1試合に投手の所に行ける回数は3回以内とする(『競技に関する連盟特別規則(各大会共通)』9)。なお、当連盟では交代した投手は同一イニング中であっても他の守備位置につくことや再び投手となることが許される。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・タイムの回数によって投手が自動的に交代となる条件を上位の規則に合わせる(項番(12)の守備側のタイムは投手の交代には関係しない)。</li> <li>・本部及び審判員は監督が投手のもとへ行った回数と守備側のタイムの回数をそれぞれカウントすること。</li> <li>・回数のカウントは攻撃側のタイムの間であるかどうかには関わらない。</li> </ul>
(12)	<p>捕手または内野手がタイムを要求し認められた場合、1試合に投手の所へ行ける回数を3度以内とする。ただし、監督がマウンドへ行っても投手1人のみを対象とする場合は、この限りではない。なお、特別延長戦(通常延長戦=決勝戦のみ)となった場合は、1イニングに1度行くことができる。</p>	<p>守備側のタイムの回数制限</p> <p>捕手または内野手が1試合に投手の所へ行ける回数は3回以内とする(『競技に関する連盟特別規則(各大会共通)』10)。なお、</p> <p>イ. 守備側のタイムと同時に監督も投手の所へ行った場合は、それぞれ1回と数える。</p> <p>ロ. 特別延長戦となった場合は、1イニングに1回行くことができる。</p>	

項番	改定前	改定後	備考
(13)	※代理監督はコーチの背番号のままとし、30番は付けない。但し、メンバー表の監督欄に“代理”を記入し、その旨を本部に申し出ること。	※代理監督は原則としてコーチ2名のうちのいずれかとし背番号は元のままとする(30番は付けない)。但し、メンバー表の監督欄に“代理”を記入し、その旨を本部に申し出ること。また、コーチの代理は1名のみ認める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・監督の代理を務めることができるのは、原則として登録されたコーチ2名のいずれかとするを明記。</li> <li>・コーチの代理が認められるのは1名のみとするを明記。</li> </ul>
(14)	背番号 選手は1番から20番まで(主将は10番)とし、監督は30番、コーチは原則として、29番 28番及び27番とする。	背番号 選手は1番から20番まで(主将は10番)とし、監督は30番、コーチは原則として、29番、28番及び27番(代理コーチ)とする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・代理コーチの背番号として認められるのは27番に限ることを明記。</li> </ul>
(15)	スコアラー 私服の指導者(女性も含む)でも認めるが、アマチュアスポーツに相応しいスポーティーな服装とし、所属チームの帽子を必ず着帽すること。	スコアラー ユニフォームや審判服の着用は認めない。アマチュアスポーツ・学童野球に相応しいスポーティーな服装とし、所属チームの帽子を必ず着帽すること。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・例えば、<u>短パンやタンクトップ</u>などは認められない。</li> </ul>

項番	改定前	改定後	備考
(17)	<p>監督が投手のところへ行く回数の制限:野球規則 8・06</p> <p>イ. 監督が同一イニングに同一投手のところへ二度目に行くか、行ったとみなされた場合は、投手は自動的に交代しなければならない。連盟では、交代した投手が他の守備位置につくことが許される。</p> <p>ロ. 監督が相手チームのタイム中、投手のところへ行くことは差し支えないが、プレイの再開を遅らせた場合は、投手のところへ一度行ったこととする。</p>	<p>攻撃側のタイムの回数制限</p> <p>攻撃側のタイムは1試合に3回以内とする(『競技に関する連盟特別規則(各大会共通)』11)。なお、特別延長戦となった場合は、1イニングに1回とする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・監督が投手の所に行く回数については項番(11)で規定しているため削除。</li> <li>・代わりに、攻撃側のタイムの回数制限について明記。</li> <li>・回数のカウントは守備側のタイムまたは監督が投手の所に行っている間かどうかに関わらない。</li> </ul>
<b>3. 注意事項</b>			
(7)	-	<p>審判員に対する欺瞞行為は厳禁とする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・欺瞞行為とは例えば以下が該当する。</li> <li>-捕手が投球を受けたときに意図的にボールをストライクに見せようとミットを動かす行為(審判員を侮辱する行為と受け取られることがある)。</li> <li>-捕手が投球を受ける前に監督・コーチや捕手が「入った!」と声を上げる行為(これは打者に対する欺瞞行為でもある)。</li> </ul>
(8)	-	<p>各試合の勝利チームの関係者はその試合の終了後にグラウンド整備に協力すること。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者の方にご協力いただいても構わない。</li> </ul>

項番	改定前	改定後	備考
<b>4. 選手に関する注意事項</b>			
(3)	投手のグラブについて 縫い目・締め紐・網部分も含め、白色・銀色・灰色以外の単色でなければならない。	投手のグラブについて <b>縁取りを除き</b> 縫い目・締め紐・網部分も含め、白色・銀色・灰色以外の色でなければならない。 また、 <b>縁取り、締め紐、縫い糸を除く</b> グラブ本体（捕球面、背面、網）は単色でなければならない（『野球規則』3.07（a））。	・『野球規則』に準ずるように修正。また、その項番を明記。
(4)	試合に出場する捕手は、ファウルカップを着用すること。	試合に出場する捕手は、ファウルカップを着用すること（シートノック中も着用すること）。	・捕手のファウルカップの着用はシートノック中であっても同様であることを明記。
(8)	イ. 投手の準備投球の際、危険防止の為、捕手に防具＝マスク及びヘルメットの着用を義務付ける。 ◆控え選手の場合も同様とする。 但し、 <b>やむを得ない場合は指導者は不要</b> とするが、極力控え選手を起用するよう、各チーム心掛ける事。	イ. 投手の準備投球 <b>およびブルペンでの投球練習</b> の際、危険防止の為、捕手に防具＝マスク及びヘルメットの着用を義務付ける（『野球規則』3.08（d））。 ◆控え選手の場合も同様とする。 但し、 <b>やむを得ず監督・コーチが捕手を務める場合は防具の着用は不要</b> とするが、極力控え選手を起用するよう、各チーム心掛ける事。	・ブルペンでの投球練習も同様であることを明記。 ・関連する『野球規則』の項番を明記。 ・「但し、」以下の文言を修正。 ・外部の大会では監督・コーチが捕手を務めることを禁止している場合があることに注意。
	ハ. 捕手の本塁上でのプレイについて 『野球規則』7.06（a）【付記】	ハ. 捕手の本塁上でのプレイについて 『野球規則』6.01（h）【付記】	・『野球規則』の項番を修正。
(10)	投手が捕手のサインを見るときは、必ず投手板について見ること。	投手が捕手のサインを見るときは、必ず投手板について見ること（『野球規則』5.07（a））。	・関連する『野球規則』の項番を明記。

項番	改定前	改定後	備考
(11)	投手の無用なけん制は、度が過ぎるとペナルティを課すことがある。(遅延行為)	投手の無用なけん制は、度が過ぎるとペナルティを課すことがある(遅延行為)(『野球規則』6.02(a)(8)、(c)(8))。	・関連する『野球規則』の項番を明記。
(12)	打者はバッターボックス内でベンチのサインを見ること。	打者はバッターボックス内でベンチのサインを見ること(『野球規則』5.04(b)(4)バッターボックスルール)。	・関連する『野球規則』の項番を明記。
(14)	スクイズプレイで打者による反則行為があった場合は、打者アウトでボールデットとなり、3塁走者は3塁に戻る。3塁走者はアウトにならない。	スクイズプレイで打者による反則行為(反則打球)があった場合は、打者アウトでボールデットとなり、3塁走者は3塁に戻る。3塁走者はアウトにならない(『野球規則』5.06(c)(4))。	・ここで適用される反則行為は「反則打球」であることを明記。守備妨害に対しては『野球規則』に準ずる(5.09(b)(8)など)。 ・関連する『野球規則』の項番を明記。
(15)	投手の守備位置交代について 『野球規則』3.03【原注】〔前段〕の項(中略) ◆ <u>当連盟では、本規則は適用しない。</u> (軟連特別規約)	投手の守備位置交代について 『野球規則』5.10(d)【原注】〔前段〕の項(中略) ◆ <u>当連盟では、本規則は適用しない</u> (『競技に関する連盟特別規則(各大会共通)』2)。	・上位の規則の項番および名称を修正。
(16)	イ. 大会開催日当日、 <b>時間的余裕のない場合に限り</b> 、次試合の先発投手のみウォーミングアップを認める。	イ. 大会開催日当日、次試合の先発投手のみウォーミングアップを認める。	・実態に合わせて修正。

項番	改定前	改定後	備考
	<p>ロ. 捕手役は、原則としてベンチ入り指導者(スコアラーは除く)とする。</p> <p>※ウォーミングアップの際は、当該試合の打球・送球に注意し、試合の妨げにならないよう徹底する。</p>	<p>ロ. 捕手役は、原則としてベンチ入り指導者(スコアラーは除く)とする。また、ヘルメットを着用した補助の選手を立たせ、打球に注意させること。</p> <p>※ウォーミングアップの際は、当該試合の打球・送球に注意し、試合の妨げにならないよう徹底する。</p> <p>※当該試合の投手が投球姿勢に入ったらプレイが一段落するまでウォーミングアップでの投球を開始しないこと(これは当該試合の選手のブルペンでの投球練習も同じである)。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・補助の選手を入れることを明記</li> <li>・投球練習のボールが試合を混乱させないための注意を追加</li> </ul>
	<p>ハ. 投球練習開始のタイミングは、(中略)。</p> <p>目安としては、</p> <p>Aリーグ：当該試合の1時間15分経過後、または<b>5回表</b>とする。</p> <p>Bリーグ：当該試合の50分経過後、または<b>3回表</b>とする。</p>	<p>ハ. 投球練習開始のタイミングは、(中略)。</p> <p>目安としては、</p> <p>Aリーグ：当該試合の1時間15分経過後、または<b>4回終了時</b>とする。</p> <p>Bリーグ：当該試合の50分経過後、または<b>2回終了時</b>とする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・投球練習開始のタイミングを明確化。</li> </ul>
(17)	-	<p>投手がセットポジションにおいてボールを両手で保持して動作を静止させるとき、両手を止める位置は1試合を通じて同じでなければならない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<u>セットポジションで両手を止める位置についての制限</u>を明記。</li> </ul>



項番	改定前	改定後	備考
(18)	-	選手、監督及びコーチのスパイク及びシューズは全員同色とすること。	・上位の規則ではこの制限が無くなったため、当連盟の注意事項として明記。
<b>5. 審判員に対する注意事項</b>			
(1)	◆同時に提出された <b>出場選手登録簿</b> を基に、氏名・背番号の記入ミスがないか入念にチェックのこと。なお、 <b>登録原簿</b> と照合の結果、誤記（ミス）に気づいた場合（後略）	◆同時に提出された <b>出場選手登録名簿</b> を基に、氏名・背番号の記入ミスがないか入念にチェックのこと。なお、 <b>登録名簿</b> と照合の結果、誤記（ミス）に気づいた場合（後略）	・文言の修正。
(4)	判定の変更について ルール解釈や適用の間違いによるミスジャッジや、誰が見ても明らかなミスジャッジは速やかに（ベンチからの抗議＝タイムが要求される前）当該審判員及び本部にて協議し、裁定を訂正すること。	判定の変更について ルールの解釈や適用の間違い及び誰が見ても明らかなミスジャッジは速やかに（ベンチからの抗議＝タイムが要求される前）当該審判員及び本部にて協議し、裁定を訂正すること。	・文言の修正。
<b>6. 連盟制定“特別ルール”について</b>			
(1)	投手は変化球を投げることを禁止する 全日本軟式野球連盟 競技者必携 特別規則 17項より	投手は変化球を投げることを禁止する 『競技に関する連盟特別規則（少年部・学童部）』7より	・上位の規則の名称を修正。
(2)	投手のけん制球が悪送球となった場合 『野球規則』7.05（g）及び（h）関連	投手のけん制球が悪送球となった場合 『野球規則』5.06（b）（4）（G）及び（H）関連	・『野球規則』の項番を修正。

項番	改定前	改定後	備考
(3)	<p>捕手、投手を含む野手が飛球（ファウル）を捕えた後、ベンチ又はデッドラインを越えて踏み込んだり、倒れ込んだ場合</p> <p>『野球規則』 5. 1 0 ( f)、6. 0 5 ( a) 及び 7. 0 4 ( c) の項</p>	<p>捕手、投手を含む野手が飛球（ファウル）を捕えた後、ベンチ又はデッドラインを越えて踏み込んだり、倒れ込んだ場合</p> <p>『野球規則』 5. 1 2 ( b) ( 6)、5. 0 9 ( a) ( 1) 及び 5. 0 6 ( b) ( 3) ( C) の項</p>	<p>・『野球規則』の項番を修正。</p>
(4)	<p>打球処理直後の内野手の最初のプレイに基づく悪送球がなされた場合</p> <p>『野球規則』 7. 0 5 ( g) 【付記】 (中略)</p> <p>◆<u>当連盟では、打者走者・走者ともに本規則を適用しない。</u></p> <p>外野手の打者走者に対する一塁への悪送球も同様とする。</p>	<p>打球処理直後の内野手の最初のプレイに基づく悪送球がなされた場合</p> <p>『野球規則』 5. 0 6 ( b) ( 4) ( G) 【規則説明】 (中略)</p> <p>◆<u>当連盟では、打者走者・走者ともに本規則を適用しない。</u></p> <p><b>投手の投球当時の各走者の位置を基準とする。</b>また、外野手の打者走者に対する一塁への悪送球も同様とする。</p>	<p>・『野球規則』の項番を修正。</p> <p>・各走者の進塁の基準を明記。</p>

項番	改定前	改定後	備考
(5)	<p>“練馬総合運動場”に於ける特別グラウンドルール (後略)</p>	<p>投手の投球またはけん制球がボールデッドとなった場合</p> <p>『野球規則』5.06 (b) (4) (H)【規則説明】</p> <p>“投手の投球が捕手を通過した後(捕手が触れたかどうかを問わない)さらに捕手またはその他の野手に触れて、ベンチまたはスタンドなど、ボールデッドと規定された個所に入った場合、および投手が投手板上から走者をアウトにしようと試みた送球が、その塁を守る野手を通過した後(その野手が触れたかどうかを問わない)さらに野手に触れて、前記の個所に入ってボールデッドとなった場合、いずれも、投手の投球当時の各走者の位置を基準として、各走者に2個の塁を与える。”とあるが、</p> <p>◆<u>当連盟では、本規則を適用しない。</u></p> <p>捕手や野手を通過した後に直接ボールデッドと規定された個所に入った場合と同様、上記の場合にも<u>各走者に1個の塁を与えることとする。</u>また、上記6(2)項に関連して投手板をはずして走者のいる塁へ送球した場合も同様とする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>投手の投球またはけん制球がボールデッドとなった場合には、各走者に与えられる塁は<u>常に</u>投手の投球当時の位置を基準として1個とすることを明記(試合会場となるグラウンドの状況に配慮)。</li> <li>ただし、捕手または野手を通過した後、さらに捕手または野手が故意にボールの進路を変えてボールデッドとした場合は、各走者はボールの進路を変えたときを基準として2個の塁が与えられる。</li> </ul>

項番	改定前	改定後	備考
(6)	-	“練馬総合運動場”に於ける特別グランドルー ル (後略)	・上記(5)を追加したことによる項番の修正。